

記 録

岡山県自然保護センターにおけるヌートリアの捕獲 2. 捕獲開始後5年目の状況

岡山県自然保護センター 森 生枝

The Capture of Coypus in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center 2. The Status of the 5th Year of Capture

Ikue MORI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

キーワード：外来種、ヌートリア野生化個体、捕獲効率。

はじめに

ヌートリア *Myocastor coypus* (MOLINA, 1782) は南アメリカを原産とする水生の哺乳類である。

岡山県では戦中、戦後に毛皮採取の目的で移入され、特に生息条件が良好であった児島湾干拓地帯に放たれたものが本格的に定着するとともに、1970年代に県下に分布を拡げたと考えられている(三浦, 1976)。

ヌートリアは岡山県自然保護センターでも上池(図1)を中心にして定着しており、ヒシ、マコモ、ミクリなどを中心とした水生植物の生育に影響を与えている(森, 2003)。また最近では底生動物であるドブガイをも相当数捕食することが明らかになっている(森, 2002)。このため、予想以上に池の生態系に大きな影響を及ぼしていくものと推測される。

こうした状況を踏まえ、センターでは池の生態系を保全する目的で、2002年にヌートリア対策の方針を定め、03年以降、捕獲およびモニタリングを繰り返す方法で対策を実施してきた。捕獲は、03年から05年までは鳥獣保護法に基づき、06年からは外来生物法に基づき行った。05年までの捕獲については、森(2005)ですでに報告した。本報

では、06年および07年に行った捕獲について報告するとともに、03年以降の捕獲状況についてまとめた。

概 要

1. 2006年

06年は、外来生物法に基づく許可を受けたため、03年から05年までとは異なり、予め申請した期間内であれば、随時捕獲が行えるようになった。そのため、06年には個体の直接観察もしくは痕跡(食痕・糞)の有無に基づき、わなの設置時期・設置期間および設置数を随時決定することとした。その結果、06年には1月、5月、11月、および12月の計4回の捕獲を行うこととなった。

捕獲は、1月7日から1月20日まで、5月13日から5月22日まで、11月3日から11月9日まで、および12月25日から12月28日まで、巣穴が集中する上池を中心に、箱わな14個(ただし5月には6個、11月には3個、12月には4個)を用いて行った。その結果、1月には6頭、5月には1頭、11月には1頭、および12月には2頭の計10頭を捕獲し池の生態系からとり除いた。

なお、筆者の記録では、各捕獲期間終了直後の個体目撃数は、1月はゼロ、5月はゼロ(ただし6月5日に1頭)、11月はゼロ、12月はゼロであった。

連絡先：fvbs5492@mb.infoweb.ne.jp

2. 2007年

07年も外来生物法に基づき、06年と同様に、個体の直接観察もしくは痕跡（食痕・糞）の有無に基づき、わなの設置時期・設置期間および設置数を随時決定することとした。ただし、07年には外来生物法の再申請手続きに時間を要したことから、春から秋までの捕獲は見送らざるを得なかった。その結果、1月および12月の計2回の捕獲を行うこととなった。

捕獲は、1月6日から1月10日まで、および12月3日から12月9日まで、巣穴が集中する上池を中心に、箱わな2個を用いて行った。その結果、1月に1頭を捕獲し池の生態系からとり除いた。12月の捕獲数はゼロであった。

なお、筆者の記録では、各捕獲期間終了直後の

個体目撃数は、それぞれゼロ（2007.12.20までゼロ）であった。

詳細

1. 方法

06年および07年ともに、捕獲に際しては、三浦（1992）を参考にし、03年から05年までと同様の方法で行った。すなわち、ノネコ用の金属製箱わな（30×30×75cm、約4kg、岡崎産業株式会社製）を用い、において誘引するため、餌（わな餌）として人参を縦に二つに割ったものを使用した。上池（周囲約530m、面積約1.4ha）を中心として水辺に箱わなを設置した。見回りおよび餌の付け替えは、3日に2、3回のペースで行った。わなは機械的に置いても捕獲することはほとんど

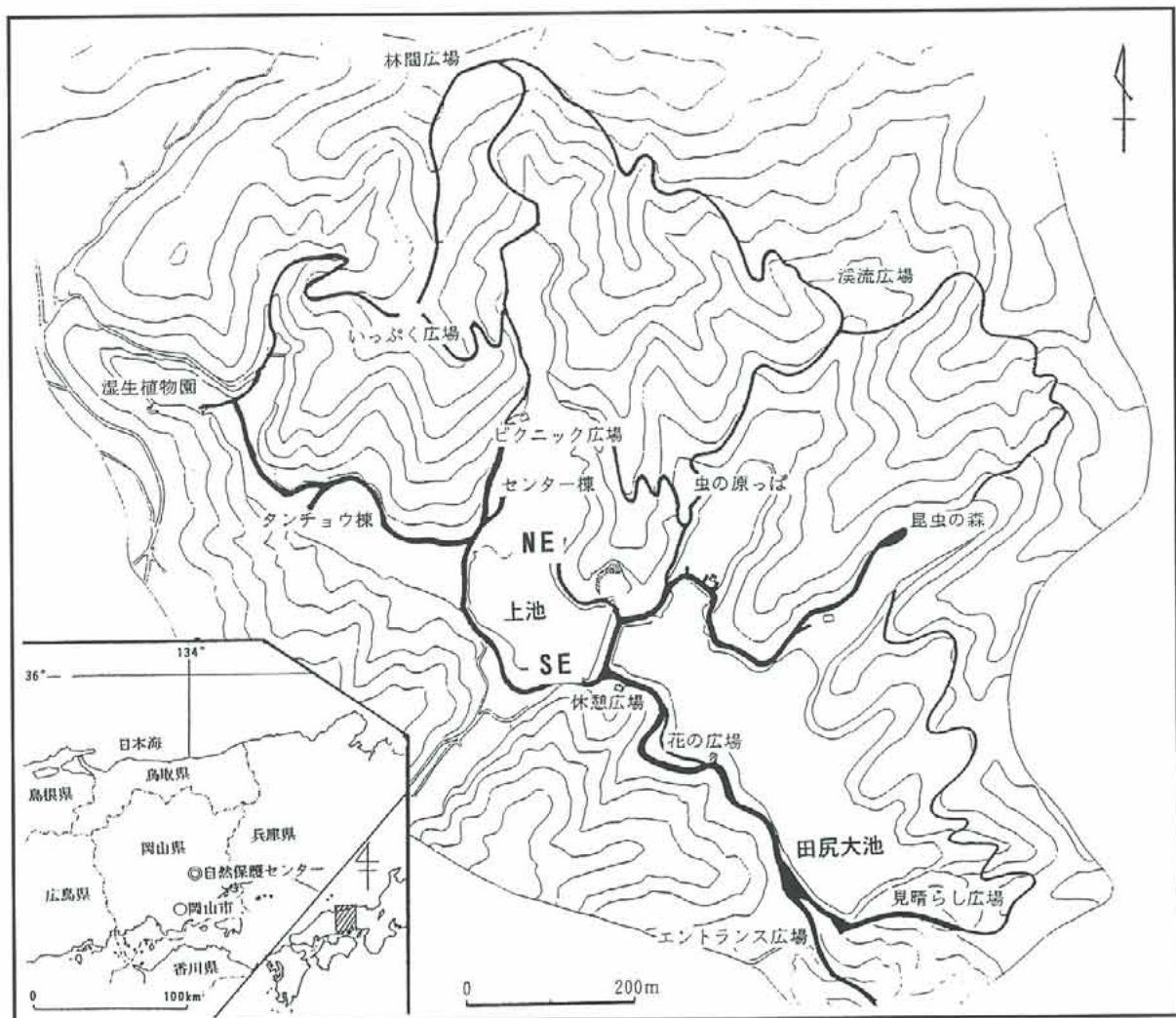


図1. 岡山県自然保護センター（34° 50′ 55″ N : 134° 3′ 20″ E）の位置図。約100haの敷地が、岡山県の鳥獣保護区特別保護地区に指定されている。

できない(三浦, 1992)ことから、彼らが頻繁に利用し地面が滑らかになっている水際の陸部分をあらかじめ調べておき、そこに設置した。なお餌の人参は、誘因力を高めるため、できる限り金時人参を用いることにした。

2. 結果

(1) 2006年

06年は10頭を捕獲した(表1)。性比はオス:メス=3:7, 体重の範囲は1050gから5730gで、最大値はオスで5730g, メスで5200gであった。捕獲個体の全体重は42330gであった(表2)。三浦(1994)に従い、1.5kg以上を成獣, 1.5kg未満を幼獣として区別すると、10頭のうち1頭が幼獣であった。なお、捕獲されたメス成獣6頭のうち少なくとも5頭が妊娠していた。目視確認できた胎児数はそれぞれ8, 9, 1, 6, 6であった(表1)。

主たるわなの設置範囲は、上池北岸東ライン(NE)および上池南岸東ライン(SE)であった(図1)。

(2) 2007年

07年はオス成獣1頭(体重5200g)を捕獲した(表1)。主たるわなの設置範囲は、上池南岸東ライン(SE)であった(図1)。

(3) 2006年および2007年の各回の捕獲について

・2006年1月

06年1月は、03~05年に従い、1月初頭にわな設置を行った。その結果、成獣6頭(2♂4♀)を捕獲した。幼獣の捕獲確認はゼロであった(表1-d)。03年以降捕獲を行ってきたが、幼獣の捕獲数がゼロであったのは初めてであった(表2)。また、4頭のメス成獣のうち3頭が妊娠しており、目視できた胎児数はそれぞれ8, 9, 1であった。さらに、1月に捕獲された6頭のうち、体重の最も軽かったメス(2600g)では、前足指に凍傷が認められた(写真1~3)。凍傷個体の確認も03年の捕獲開始以降、初めてのことであった。

・2006年5月

06年5月には、メス成獣1頭を捕獲した。この個体も妊娠しており、剖検の結果、目視できた胎児数は6であった(表1-e)。

・2006年11月

06年11月には、直接観察により幼獣1頭を目撃があったため、即座にわなを設置した。その結果、1050gのメス1頭を捕獲した(表1-f)。

・2006年12月

06年12月には、池岸において食痕および糞が明瞭に観察されるようになったため、その場所にわなを設置した。その結果、成獣2頭(1♂1♀)を捕獲した。メス個体は妊娠しており、目視できた胎児数は6であった(表1-g)。

・2007年1月

07年1月にも、池岸において食痕および糞が明瞭に観察されるようになったため、その場所にわなを設置した。その結果、オス成獣1頭を捕獲した(表1-h)。

・2007年12月

07年12月には、池干しが行われている上池では明瞭な食痕などは認められなかった。周辺に位置する、虫の原っぱエリアにおいて食痕が明瞭になってきたため、その場所にわなを設置した。しかし捕獲数はゼロであった(表1-i)。

(4) 2006年および2007年を通して

・幼獣の捕獲数および凍傷個体について

03年1月から06年1月までは、1月を中心とした冬期1回のみの捕獲(わな設置)を行ってきた。特徴的であったのは、06年1月には、幼獣が1頭も捕獲されなかったことである。かつ06年1月には凍傷が認められた成獣個体が03年の捕獲開始以降、初めて捕獲された。

・わなの設置箇所について

03年および04年は、主たるわなの設置範囲を上池北岸東ライン(NE)とした。しかし、04年の捕獲結果を受けて、今後の捕獲効率の低下が懸念されたため、05年は新たに上池南岸東ライン(SE)も設置範囲に加えたところ、このエリアで全捕獲数15頭のうち6頭が捕獲された(図1)。新たな設置範囲(SE)付近にはヌートリアの巣穴が集中している。ヌートリアは巣穴を中心とした行動圏をもつ(三浦, 1977)ことから、巣穴近くの休み場は、わな設置場所としては重要であると考えられた。そこで、06年および07年においても、基本的には05年のわな設置範囲を踏襲するかたちで行うこととした。

表1. 各々な設置期間における捕獲個体の内訳.

a. 2003年1月～3月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満	1	1 ♂
1 kg台	1	1 ♀
2 kg台	2	1 ♂, 1 ♀
3 kg台	2	2 ♀
4 kg台	2	1 ♂, 1 ♀
5 kg台	1	1 ♀
6 kg台		
7 kg台	1	1 ♂
	10	4 ♂, 6 ♀ (胎児数は不明)

b. 2004年1月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満	8	5 ♂, 3 ♀
1 kg台		
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台	1	1 ♀ (胎児6)
5 kg台		
6 kg台		
7 kg台		
	9	5 ♂, 4 ♀

c. 2005年1月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満	2	2 ♀
1 kg台	8	6 ♂, 2 ♀
2 kg台	2	1 ♂, 1 ♀
3 kg台		
4 kg台		
5 kg台	3	2 ♂, 1 ♀ (胎児12)
6 kg台		
7 kg台		
	15	9 ♂, 6 ♀

d. 2006年1月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台		
2 kg台	1	1 ♀
3 kg台		
4 kg台	2	1 ♂, 1 ♀ (胎児8)
5 kg台	3	1 ♂, 2 ♀ (胎児9, 1)
6 kg台		
7 kg台		
	6	2 ♂, 4 ♀

e. 2006年5月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台		
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台	1	1 ♀ (胎児6)
5 kg台		
6 kg台		
7 kg台		
	1	1 ♀

f. 2006年11月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台	1	1 ♀
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台		
5 kg台		
6 kg台		
7 kg台		
	1	1 ♀

g. 2006年12月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台		
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台	1	1 ♀ (胎児6)
5 kg台	1	1 ♂
6 kg台		
7 kg台		
	2	1 ♂, 1 ♀

h. 2007年1月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台		
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台		
5 kg台	1	1 ♂
6 kg台		
7 kg台		
	1	1 ♂

i. 2007年12月

体 重	捕獲数	性 別
1 kg未満		
1 kg台		
2 kg台		
3 kg台		
4 kg台		
5 kg台		
6 kg台		
7 kg台		
	ゼロ	

表2. 各年の捕獲数, 総重量および内訳.

年 月	捕獲数	総重量(g)	内 訳*
2003年1月～3月	10 (4♂6♀)	34150	成8 (3♂5♀) : 31920, 幼2 (1♂1♀) : 2230
2004年1月	9 (5♂4♀)	9630	成1 (- 1♀) : 4100, 幼8 (5♂3♀) : 5530
2005年1月	15 (9♂6♀)	32750	成8 (6♂2♀) : 24500, 幼7 (3♂4♀) : 8250
2006年1月	6 (2♂4♀)	27000	成6 (2♂4♀) : 27000, 幼0 (- -) : 0
5月	1 (- 1♀)	4500	成1 (- 1♀) : 4500, 幼0 (- -) : 0
11月	1 (- 1♀)	1050	成0 (- -) : 0, 幼1 (- 1♀) : 1050
12月	2 (1♂1♀)	9780	成2 (1♂1♀) : 9780, 幼0 (- -) : 0
2007年1月	1 (1♂ -)	5200	成1 (1♂ -) : 5200, 幼0 (- -) : 0
12月	0 (- -)	0	成0 (- -) : 0, 幼0 (- -) : 0
	45 22♂23♀	124060	27 13♂14♀ 107000 18 9♂9♀ 17060

*成：成獣, 幼：幼獣の略. 三浦 (1994) に従い1.5kg未満の個体を幼獣とした.

表3. 各年のわな設置期間, わな日数*, 捕獲数および捕獲個体確認日.

	わな設置期間	わな日数	捕獲数	捕獲個体確認日
2003	1/6～1/31 (26日間)	357	9	1/8,9,10,10,13,13,14,16,16
	2/1～2/28 (28日間)	417	1	2/24
	3/1～3/31 (31日間)	465	0	
小計	85日間	1239	10	
2004	1/7～1/31 25日間	334	9	1/7,7,10,10,10,17,17,31
2005	1/6～1/31 26日間	225	15	1/8,8,8,9,9,9,11,12,13,13,14,14,15,15
2006	1/7～1/20 (14日間)	133	6	1/8,10,10,12,14,14
	5/13～5/22 (10日間)	44	1	5/14
	11/3～11/10 (8日間)	21	1	11/6
	12/25～12/28 (4日間)	12	2	12/26,27
小計	36日間	210	10	
2007	1/6～1/10 (5日間)	8	1	1/10
	12/3～12/9 (7日間)	12	0	
小計	12日間	20	1	
合計	189日間	2028	45	

*わな日数は「わな数×設置昼夜数」を表す.

・わな設置について

各年におけるわな設置期間、わな日数、捕獲数および捕獲個体確認日を表3に示した。

03年から05年までの捕獲結果から、わな設置開始後12日目以降はほとんどヌートリアがわなに入らない状態になることがわかったため（森，2005），06年以降は，1回につき最長2週間を目途に，連続してわな設置を行うこととした。06年および07年のわな日数はそれぞれ210，20であった（表3）。

・混獲について

06年1月の捕獲期間中，ホンダタヌキ1頭の混獲があった。確認時に衰弱の様子は見られず，個体はその場で放逐した。06年および07年における混獲はこの1回のみであった。

3. 補足—2003年～2007年の捕獲から

・捕獲数および総重量について

03年から07年までの，各年における捕獲数は，10，9，15，10，1頭であった。また，捕獲個体の総重量はそれぞれ34150 g，9630 g，32750 g，42330 g，5200 gであった（表2）。2004年の値が9,630 gと著しく小さかったのは，この年に捕獲された9頭のうちの8頭が幼獣であったためである。一方，06年における総重量は42330 gで，これまでで最も大きくなった。これはこの年に捕獲された10頭のうち幼獣が1頭のみであったことによる（表2）。ただ，06年には4回に分けて捕獲（わな設置）を行ったことから，05年までの値と単純に比較することはできない。そこで次のようにして比較を行った。

・03年から06年までの1月の捕獲時における捕獲効率の比較

各年の1月捕獲時における捕獲効率を比較するために，わな設置開始後2週間における，わな日数，捕獲数および捕獲個体総重量に着目した（表4）。これを見ると，個体数からみた捕獲効率，ならびに重量からみた捕獲効率は，ともに05年において最も高くなっていた。05年には，それまで設置していなかった巣穴近くの休み場をわな設置範囲に含めたところ，新たな設置場所で，この年の全捕獲数15頭（総重量32750 g）のうちの6頭（総重量16000 g）が捕獲された経緯がある。このことから，適切な場所へのわな設置が，捕獲効率を高める上で際めて重要な要素になることが考えられる。

・混獲について

03年から07年までに実施したセンターにおけるヌートリア対策において，箱わなによって45頭のヌートリアを捕獲した際，ヌートリアのわなに混獲されたのは，ホンダタヌキ1頭の1回のみであった。

・他の動物への餌付け効果防止について

餌は3日に2，3回のペースで新しいものに取り替えた。その際，他の動物への餌付け効果をできる限り防ぐため，古くなった餌はすべて回収した。ネズミ類などによると推定された細かなかじり屑の確認は，04年に設置した箱わなのごく一部で確認されたが，05年，06年および07年には見られなかった。

表4. 03年から06年までの1月の捕獲時における捕獲効率の比較.

	わな日数(a)	捕獲数(b)	a/b*	総重量(c)	c/a**
2003-Jan. 1st 2week : (1/6-1/19)	177	9	19.7	30950	175
2004-Jan. 1st 2week : (1/7-1/20)	172	8	21.5	8640	50.2
2005-Jan. 1st 2week : (1/6-1/19)	129	15	8.60	32750	254
2006-Jan. 1st 2week : (1/7-1/20)	133	6	22.2	27000	203

*a/b: 値は小さい程，捕獲効率（個体数の）がよいことを示す。

**c/a: 値は大きい程，捕獲効率（重量の）がよいことを示す。

各年ともに，わな設置開始後の最初の2週間における値を用いて比較した。表4からは，個体数からみた捕獲効率，ならびに重量からみた捕獲効率ともに，2005年において最も高くなっていることがわかる。

引用文献

- 三浦慎悟, 1976. 分布から見たヌートリアの帰化・定着, 岡山県の場合. 哺乳動雑, 6 : 231-237.
- 三浦慎悟, 1977. テレメトリー法によるヌートリアのホームレンジの推定. 文部省科研費一般研究報告書「動物テレメトリーの現況」(動物テレメトリーグループ編). 22-26.
- 三浦慎悟, 1992. ヌートリアの捕獲法. 哺乳類科学31(2) : 145-146.
- 三浦慎悟, 1994. ヌートリア. 日本の希少な野生

- 生物に関する基礎資料 (I) (水産庁編). 539-546. 日本水産資源保護協会.
- 森 生枝, 2002. ヌートリア野生化個体によるドブガイの大量捕食. 岡山県自然保護センター研究報告 (10) : 63-67.
- 森 生枝, 2003. 岡山県自然保護センターにおけるヌートリアの食性. 岡山県自然保護センター研究報告 (11) : 49-58.
- 森 生枝, 2005. 岡山県自然保護センターにおけるヌートリアの捕獲. 岡山県自然保護センター研究報告 (13) : 15-19.



写真1. 前足に凍傷が認められた個体 (2006年1月10日に捕獲確認した体重2600gのメス). 凍傷個体の確認は, 2003年の捕獲開始以降, 初めてのことであった.



写真2. 写真1の個体の右前足. 第4指および第5指の爪が欠けていた.



写真3. 写真1の個体の左前足. 掌部分の一部が赤くなり, 第5指の爪が欠けていた.